

自動車運送事業者の安全文化醸成へのサポート



入社理由 車社会のトータルサポートに貢献

私が NASVA を知ったきっかけは、大学の就職課での面談時に先輩方の就職履歴を閲覧したことでした。私は幼い頃から車好きでしたので、「自動車事故対策機構」という名称から、「車に関わる仕事ではないか」と思い NASVA に興味を持ちました。調べてみると、「自動車アセスメント」業務では試験結果を通じてユーザーの安全な自動車選びのサポートをし、メーカーに対してはより安全な自動車の開発を促していることを知りました。また、「適性診断」業務では運送事業ドライバーの方へ安全運転の助言、「指導講習」業務ではドライバー管理者への管理手法の伝達、「運輸安全マネジメント」では安全意識の向上に取り組む社内文化の醸成、「被害者援護」では事故の被害に遭った方々への支援等、車社会のトータルサポートを行っていることに共感し、NASVA で働くことを決めました。

業務の役割 自動車運送事業者の安全文化醸成へのサポート

現在、東京主管支所において運輸安全マネジメント業務を担当しております。「運輸安全マネジメント」とは、自動車運送事業者が経営トップを中心に全社一丸となり安全管理体制を構築・改善し、安全文化を醸成することで輸送の安全性を向上させることを目的としている制度で、全ての運送事業者が取り組まなければいけません。いざ、この安全文化の醸成に取り組もうとしても、「どこから手をつけて良いかわからない」という運送事業者は少なくありません。私の業務は、あらゆる角度から安全文化を醸成するお手伝いをさせて頂くことです。具体的には、「運輸安全マネジメント」を普及させることを目的としたセミナーの実施、運送事業者が「運輸安全マネジメント」体制を構築するためのコンサルティングの実施、管理者及び運転者の安全意識を向上させるための講師派遣などがあります。

将来の目標 「寄り添うナスバ」を形に

軽井沢スキーバス事故や山陽道トンネル多重追突事故を機に、自動車運送事業者にはより一層の「安全」が求められています。そうした「安全」が求められている中で、更なる安全に向けてどのような取り組みを実施すべきか、また、取り組みを実施しているがその成果が出ない等、安全に向けた取り組みの方法に困窮している事業者の方々は多くいらっしゃいます。そのような方々に、「困ったときの NASVA」と頼っていただけ、そんな存在になれることを目標に日々業務にあたっております。そのために、NASVA の行動指針でもある、事業者の皆さまに「寄り添う」ことを念頭において、相手の立場に立った対応を心がけています。

また、各事業者の安全運転講習会などに講師としてお邪魔した際に、大人数(100~800名程度)の前で講演をする機会があります。伝えたい内容をすべての人の心に届けることは容易ではありません。講師としてまだまだ未熟な部分がありますので、大人数を前にしても伝えたいことが受講している皆さまに伝わる「伝え方」を吟味し、更なる業務の質の向上を図ってまいります。



学生へのメッセージ NASVA で働く自分の姿をイメージして

NASVA は風通しのよい、フラットな職場だと感じております。先輩職員の方がサポートしてくれるので、様々な事に挑戦することが出来ます。だからこそ、学生の皆さんは NASVA で働く自分の姿をイメージし、NASVA に入ってどんな仕事をしたいか、探ってみて下さい。また、今後、自分が働く場所の雰囲気を感じることも大切だと思いますので、是非一度、支所見学に来ていただくのも良いかと思います。



川島 知之 カワシマ トモユキ 東京主管支所スタッフ

平成27年4月入社
文学部社会学科卒

新規採用で安全指導部に配属され、業務実績の取り纏めや予算業務を担当。平成29年度より現職に至る。